



目次

- 渡辺伸行 「CEDACH と私」
魚津知克 「英国イーストアングリア大学との
ミーティング」
阿見雄之 「レスキューされた文化財へ会いに行く」

● CEDACHと私

CEDACH(被災文化遺産コンソーシアム)は、東日本大震災の大災害を目にして、被災地域の人々の復興に際して、文化遺産に携わる者として何が出来るかという思いから、考古・歴史・文化遺産・情報の研究者や自治体・民間に籍を置く関係者が集まって結成された行動する団体です。地震後の3月23日に発足し、甚大な被害を受けた被災地を支援しようと熱意と使命感に燃える若い研究者が集まり、活動を続けています。

私は、長年自治体で文化財保護に携わってきましたが、奇しくも退職の年2011年3月に東日本大震災が起き、再び被災地の文化遺産保護に関わることとなりました。阪神・淡路大震災で文化財の保全に取り組んだ経験を求められ、CEDACHの顧問や奈良文化財研究所の文化財レスキューと被災3県1市と国で構成される震災復興埋蔵文化財調査の円滑な推進のための会合に参加しています。

17年前の阪神・淡路大震災の当時と比較しますと、OA機器の格段の進歩、情報通信網の普及、文化遺産に対する社会の理解、保護制度の整備など、文化遺産を取り巻く環境は大きく変わってきました。しかし東日本大震災では、津波災害と原発事故による放射能汚染が引き起こした居住制限など、私たちが未経験の新たな事態も発生しています。

現在CEDACHで中心となって活動しているメンバーは、私より一世代も年下の若い研究者や専門家たちばかり。今回の震災が提起した新たな課題に対し、手探りながら調査支援や情報発信、レスキューした資料目録作成に取りくんでいます。ここで経験したことは、必ず他日同種の災害が生じたときにも、活かされることでしょう。若いメンバーが多いだけに、とても心強さを感じます。震災復興の歩みにあわせ、必要とされるものを考える集団として、今後もCEDACHの息の長い活動を期待しますし、年長者として一線で活躍する若い世代の側面支援ができれば、それが私の喜びです。(渡辺)

● 英国イーストアングリア大学とのミーティング

7月13日(金)の夕方、キャンパスポート大阪において、英国イーストアングリア大学世界美術・博物館学部(School of World Art Studies and Museology, University of East Anglia, UK)のみなさんに、CEDACHの活動を報告し意見交換をおこなうことを目的としたミーティングが開かれました。イーストアングリア大学からは、教員1名(松田講師)・大学院生3名、CEDACHからは2名(魚津・清野)がミーティングに参加しました。

イーストアングリア大学のみなさんは、「東日本大震災からの復興活動と文化財」を調査する趣旨で、昨年東日本大震災以来各地において進められているさまざまな文化財救済・復旧活動の調査研究を進めています。その一環として、7月上旬から中旬にかけて来日し、東北・関東・関西の各地で実地調査を実施するなかで、ミーティングが実現したものです。ソーシャルネットワークを活用した後方支援活動として、CEDACHの活動について大きな関心をもったそうです。

まず、CEDACHのメンバーより、これまでの活動の歩みや今後の課題について、簡単に説明しました。

その後、イーストアングリア大学のみなさんとディスカッションを行いました。イーストアングリア大学のみなさんからは、「ソーシャルメディアはどこまで有効に機能したのか?」「津波被災地において防災遺産を保存するにはさまざまな意見があるが、どう考えるか?」といった質問が出され、突っ込んだ意見交換をおこないました。

そして、このミーティングの内容もふまえた形で、来年秋に刊行予定の『防災遺産学(仮題)』に、イーストアングリア大学のみなさんからコラム形式でご寄稿を頂くことになりました。

今後も、国内外の関係者のみなさんと、相互の情報提供や意見交換を積極的におこない、ネットワークづくりに結び付けていきたいと考えております。(魚津)

【イーストアングリア大学】イングランド東部、ノーフォーク州の州都ノリッチ(Norwich)に立地する総合大学。国内最大級のスポーツ施設やセインズベリーセンター・芸術研究ユニットも併設されている。

● レスキューされた文化財へ会いに行く

東日本大震災から約1年と半年。少しずつですが、救出され修復された文化財・文化遺産の姿も報告されてくるようになりました。それらは、このたびの震災だけでなく、多くの困難を乗り越えながら伝えられてきたもの達でしょう。そして、数多くのボランティア・専門家の手によって救われた姿を見ることができる展示会も開催されるようになってきました。私たち CEDACH の活動の芯にある防災遺産やその活動風景に出会える貴重な機会。ここでは、その一部をご紹介します。是非、お出かけしてみたいかがでしょうか。(阿児)

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in 盛岡

「恐竜 アロサウルスがやってきた」

平成24年9月11日(火)～12月9日(日)

岩手県立博物館(岩手県盛岡市)ほか

「記憶をつなぐ―津波災害と文化遺産」

平成24年9月27日(木)～11月27日(火)

国立民族学博物館(大阪府吹田市)

「震災からよみがえった東北の文化財展」

1. 静岡県(静岡会場)

平成24年10月26日(金)～11月12日(月)

静岡県庁別館 21階 展望ロビー

2. 愛知県(大府会場)

平成24年11月15日(木)～12月5日(水)

大府市横根公民館 ホール

3. 兵庫県(神戸会場)

平成24年12月11日(木)～平成25年1月27日(水)

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

「東北学院大学主催 文化財レスキュー展 in 仙台」

平成24年11月6日(火)～8日(木)

せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)

● 石巻文化センター文献カード入力作業

- 校正作業のお手伝いをして下さる方を募集中 -

これまでに撮影を終えた石巻文化センターの文献カード入力作業は、おかげさまで入力作業に一定の見通しが立ち、判読困難部分の原本確認といった校正作業を開始しています。

現在は大手前大学史学研究所での校正作業に関わるボランティアのみを募集しております。木曜日を基本作業日としていますが、事前にお申し出いただければ、火・水曜日も作業していただけます。引き続きご支援・ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。(事務局)

● 新しいウェブサイトへ

ニュースレター Vol.03 でご案内していました新しいウェブサイトは、ようやくお披露目できる段階になってきました。これまで分散していた情報や活動内容が、少し整理されています。しかし、内容区分がこれまで親しんでいたウェブサイトとは異なっているため、迷われる部分があるかもしれません。

新しいウェブサイトは、最低限のかたちが整った段階です。これから CEDACH の活動と連動しながら、皆さんと共により良いものに発展させていければと思います。まだ、英語版のページがなかったり、細かな不具合も残っています。このたびのウェブサイトは WordPress というシステムで動いています。これは、ブログなどで多く利用されているシステムで比較的簡単に記事の投稿・編集などをこなすことができます。ウェブサイトの編集作業や運営補助に携わっていただける方を絶賛募集中です。ご興味のある方は事務局までご連絡ください。それでは、新しいウェブサイトの登場まで暫くお待ちください。(広報チーム)



編集後記

Vol.04 は前号から、かなりの時間をおいての発行となりました。申し訳ございません。できる限り定期的な発行を心がけ、皆様に CEDACH の活動状況をお伝えしていきたいと思っています。皆様からの投稿も絶賛募集中です。書籍・イベントの紹介や、CEDACH の活動に参加しての体験記などお寄せいただくと嬉しいです。◇

CEDACH ニュースレター Vol.04

2012年10月31日発行

編集・発行

CEDACH 広報チーム

〒662-0965 兵庫県西宮市郷免町 8-17

大手前大学史学研究所内 CEDACH 事務局

TEL : 0798-32-5007

FAX : 0798-32-5045

E-mail : info@cedach.org

URL : http://cedach.org